

救急法及衛生法大意



161

126

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

始



陸普第四〇三五號

軍隊教育順次教令ニ依リ教育スヘキ救急法及衛生法
大意別冊ノ通定ム

明治四十一年八月二十九日 陸軍大臣 子爵 寺内正毅

特101
126

救急法及衛生法大意

第一編 救急法大意

第一章 創傷

其一 創傷ノ處置、繩帶包

其二 止血

第二章 三角巾

止血

第三章 急病

止血

其一、卒倒ソツタウ

二十九

其二、火傷クワシヤウ、電氣傷デンキシャウ

三十一

其三、喝病エツビヤウ

三十三

其四、凍傷トロシヤウ

三十六

其五、凍沬假死トロボカシ

三十七

其六、溺水ドキスイ

三十九

其七、窒息チクソク

四十

其八、埋歿假死マイボツカシ

四十二

其九、咬傷カッショウ、螯傷セキシャウ

四十三

其十、中毒チユウドク

四十四

第四章、人工呼吸法ジンコウコフハウ

四十五

第二編、衛生法大意

第一章、傳染病デンゼンビヤウノ豫防

五十

第二章、傳染病デンゼンビヤウノ種類

五十五

其一 虎列刺 五十五

其二 赤痢 五十八

其三 腸室扶私 六十

其四 「ペスト」 六十一

其五 麻刺里亞 六十四

其六 結核 六十五

其七 花柳病 六十七

其八 「トラホーム」 六十九

第三章 雜件 七十一

救急法及衛生法大意

第一編 救急法大意

第一章 創傷

其一 創傷ノ處置、繃帶包

第一 創ノ癒ユルコトヲ妨クルハ病原菌ノ創ヨリ入ル
ニ因ル病原菌ハ空氣中ニ雜レル塵ニ附キ居ルカ故ニ
創ヲ開キ置ケハ塵ト共ニ降リテ之ニ附ク手ノ指モ消

毒ヲ經ルニアラテハ病原菌ノ附キ居ルコトヲ免レス
故ニ創ニ指ノ觸ルルハ害アリ

紙、手巾其他ノ布片モ亦病原菌附キ居ルコトアルヲ
以テ創ニ觸レシムヘカラス
創ヲ拭ヒ淨メ又洗ヒ淨メント欲スルトキハ却テ之カ
爲ニ病原菌ヲ創ニ入ラシムル虞アリ故ニ拭ヒ洗フコ
トヲ禁ス

彈丸、衣片ノ如キ異物創口ニ見ハルトモ拔キ除カン
ト欲スルコト勿レ創ニ血ノ凝リ着キタルトキハ之ヲ
剥キ取ルコト勿レ

第二 繃帶ハ衛生部員ノ施スヘキモノトス衛生部員在
ラサルトキハ擔架卒若ハ補助擔架卒之ヲ施ス以上ノ
モノ附近ニアラサルトキハ下士卒創ヲ露シ繃帶包モ
テ繃帶ヲ施スコトヲ得

第三 創ヲ露スニハ創部ノ温存^{サワブ}ヲ要ス温存トハイタハ

ルナリ

衣^イヲ脱クニハ健側^{ケンシキ}ヨリシ再^{フタヌ}ヒ著ルニハ創側^{サヤン}ヨリシ以テ創^{キス}ヲ温存スヘシ

襦袢^{ツユバン}ハ翻轉^{ホシアン}スヘシ

袴^{ハカマ}、袴下^{ハカマシタ}ハ左右同時ニ徐^{シヅカ}ニ引キテ脱カシムヘシ
靴^{クツ}ヲ脱カシムルトキハ一手^ヲ靴ノ踵^{カカト}ニ掛クヘシ

袖^{ソア}、袴^{ハカマ}、襦袢^{ツユバン}、袴下^{ハカマシタ}、靴ハ要スルトキハ截^{カタ}リ開^{ヒラ}キ又ハ縫目^{スヒメ}ニ沿ヒテ解^{ホツル}クコトヲ得

血^チニ塗レ若^{モシク}ハ汚レタル被服^{ヒツク}ノ一部ハ創ノ周圍^{シラカ}ヨリ除^{ハシマ}キ去ルコトヲ得

第四 纏帶包^{ツヅミガミ}ハ三角巾一枚、昇汞^{シキヨコ}「ガーゼ」四枚、「ガーゼ」包紙^{ツヅミガミ}二枚及被包布一枚ヨリ成ル
纏帶包^{タダ}ハ疊ミタル「ガーゼ」一枚宛^{ダラ}ヲ包紙ニテ包ミ

其ノ二包ヲ疊ミタル三角巾ニ挿ミ此ノ三角巾ヲ被包
布ニテ包ミ縫ヒ封緘紙ヲ貼リテアリ

繻帶包ハ衣ノ左裾裏ヒダリスジワラニ納レアリ

第五 繻帶包ヲ用井ルニハ被包布ヲ解キ包紙ヲ破リ
「ガーゼ」ヲ兩指ニテ撮ミ物ニ觸レサルヤウ「ガーゼ」
ヲ開キ指ノ觸レサル處ヲ創ニ當テ殘コロレル「ガーゼ」ヲ
其ノ上ニ疊カサネ下ニ示ス如ク三角巾ニテ卷クヘシ

一度開キタル繻帶包ノ中ノ「ガーゼ」ハ一時ニ使ヒ盡
ヌヲ要ス被包布及包紙ハ創ニ用井サルモノトス
創口二箇所アラハ「ガーゼ」一包宛二箇所以上アラハ
一枚宛用井残レル「ガーゼ」ハ重オモキ創口ニ當ツヘシ
上肢ニ繻帶ヲ施シタルトキハ衣ノ鉢ボタツヲ外シ手ヲ懷フトコロニ
入レ又ハ下ニ示ス如ク前膊マントラヲ胸ノ前ニ吊リテ支ササフヘシ
第六 上肢又ハ下肢ノ骨折ホネチタル徵チヨウハ手足ノ位置常態

ニ變^{カハ}リ形^{カタチ}ヲ變^{ヘン}シ短^{ミツカ}クナリ曲^{マガ}リテ角^{カク}ヲ爲^ナシ痛^{イヌミ}甚^シクシ
テ腫^ハレ居ルニテ知ルヘシ又患者^{ブランジャー}ノ自^ラ手足^ヲ動^スコト能^ハス之^ヲ動^サントスルトキハ劇^{ハダ}シキ痛^{オボ}ヲ覺^{オボ}ユル
ニテ知ルヘシ

骨^ヲ折^{レタル處^ノ皮^ニ}創^{キズ}アラハ其^ノ創^ニ觸^ルヘカラ
サルハ勿論^{モチロン}折^{レタルヤ否^{イナ}}ヤ^ヲ知^{ラン}ト欲^シテ傷^{キズ}
ル手足^ヲ動^{カシ}折^{レタル骨^{コツ}端^{ダン}ニ}軋音^{アツオン}ヲ生^{セシメ}又ハ

曲^{リタルヲ直^{ナホ}サント欲^スルコトハ之^ヲ嚴禁^{ゲンキン}ス}

第七 上肢又ハ下肢ノ骨ノ折レタルニ補助擔架卒等在

ラサルトキハ四人ニテ縛帶^ヲ施^スコトヲ得

甲^カハ創<sup>ヨリ上^ワヲ持^チ乙^カハ創^{ヨリ下^{シタ}ヲ持^チ丙^カナシテ支^{ササ}}
ヘシメ徐^{シヅカ}ニ引キツ^ツ擡^{モダ}ケ舉^クヘシ</sup>

第一ニ依リ縛帶^ヲ要<sup>スルトキハ創^ヲ露^スヘキナレト
モ之^ヲ要^セサルトキハ縛帶^ニテ支持^ス此ノ縛帶^ハ甲</sup>

乙ノ引キツツ擡ケ居ル間ニ丙丁之ヲ施ス
 肘ヨリ上又ハ肘ヨリ下折レタルトキハ簾、新シキ席
 ノ如キモノニテ卷キ又ハ軟ナルモノヲ當テタル上ニ
 内側ニ短キ棒ノ類、外側ニ長キ棒ノ類ヲ當テテ括リ
 下ニ示ス如ク胸ニ吊リテ支ヘ又健側ノ手ニテ支ヘ持
 タシムヘシ

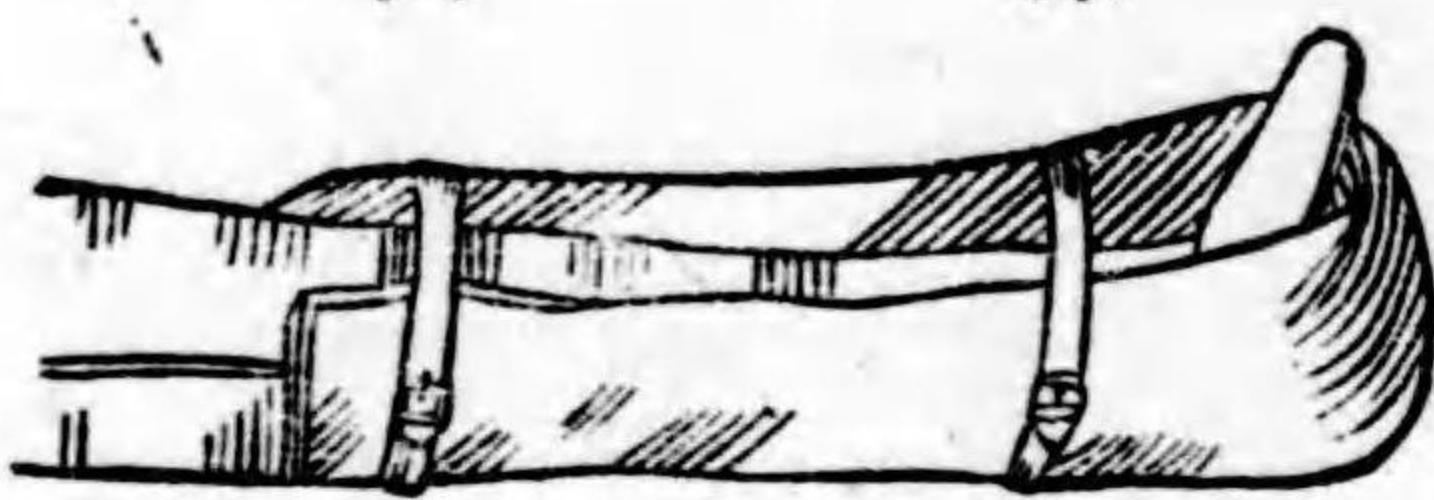
膝ノ直上又ハ膝ヨリ下折レタルトキハ單ニ長キ藁束

又ハ卷キタル外套ノ一端ヲ太腿ノ中央ノ内側ニ當テ
 跛ニテ折リ曲ケ他ノ端ヲ太腿ノ中央ノ外側ニ達セシ

メ膝ノ上下ニテ括リ附ケ支フルモ可ナリ(第一圖)
 又先ツ軟キ物ヲ當テタル上ニ下肢ノ内側ニ
 太腿ノ中央ニ達スル棒ノ類ヲ當テ外側ニ腰
 ニ達スル棒ノ類ヲ當テ括リ附クヘシ

前項ニ示セルヨリ高キ處ニテ太腿ノ骨折レ

第一圖



タルトキハ棒ノ類ヲ當ツトモ功ナキカ故ニ前項前段ノ處置ニ從ヒ安置スヘシ

棒ノ類ニハ尙、木ノ皮、高梁稈、狹キ板、ブリキ、銃劍、軍刀等アリ

其二 止血

第八 血ハ心ノ臟ヨリ動脈ニ通シ動脈ノ枝ニ入りテ全身ニ瀰リ靜脈ニ合シテ心ノ臟ニ歸ル

動脈淺キ處ニアルトキハ指ニテ脈ヲ觸ル

第九 上肢又ハ下肢ノ創ヨリ血出ツルコト少キトキ之ヲ擡ケ舉ケ、吊リ又ハ下ヨリ支フルトキハ血止マル

第一〇 上肢又ハ下肢ヨリ血出ツルコト稍多キニ衛生部員、擔架卒等在ラサルトキハ骨ノ折レ居ラヌ限りハ甲其ノ上肢又ハ下肢ヲ堅テ乙「ガーゼ」ヲ創ニ當テ「ガーゼ」ヲ疊ネテ下ニ示ス如ク三角巾ニテ括リ、高

ク支持スヘシ

第一一 指、口ノ近傍^{キンバウ}、上肢又ハ下肢ヨリ血出ツルコト甚タ多キニ衛生部員、擔架卒等在ラサルトキハ創ヨリ心ノ臟ニ近キ脈ノアル所ヲ骨ニ向ケ壓シテ血ヲ止ムヘシ

一ノ圖二第



指ヨリ血出ツルトキハ指ノ根^{チホ}ノ兩側ニ拇指ト示指^{ヒトサシ}ト適當^{ヒトコト}テ強ク撮ム

ヘシ(第二圖ノ一)

手又ハ前膊ヨリ血出ツルトキハ二ノ腕力瘤^{アチャカラコブ}ノ内側ナ

ル淺キ溝^{ミゾ}アル所ニ兩

手ノ拇指ヲ當テ他ノ

指ヲ後^シニ廻シテ握^{ギリ}

拇指モテ強ク壓スヘ

二ノ圖二第



シ(第二圖ノ二)

又傷者自ラ之ヲ行フニハ拇指ノ尖ヲ上ニ記セル溝ニ
當テ手掌ヲ前ニ廻シテ握リ拇指ノ尖ニテ壓スヘ
シ(第三圖)



第三圖

臂ノ上部或ハ腋ノ下ヨリ血出ツルトキハ頸ノ下、鎖



第四圖

骨ノ上ノ窪ニ拇指ノ尖ヲ當テ深ク内下方ニ向ヒ壓ス
ヘシ(第四圖)

口ノ近傍ヨリ血出ツルトキハ下頬骨ノ角ノ少シ前ヲ

第五圖



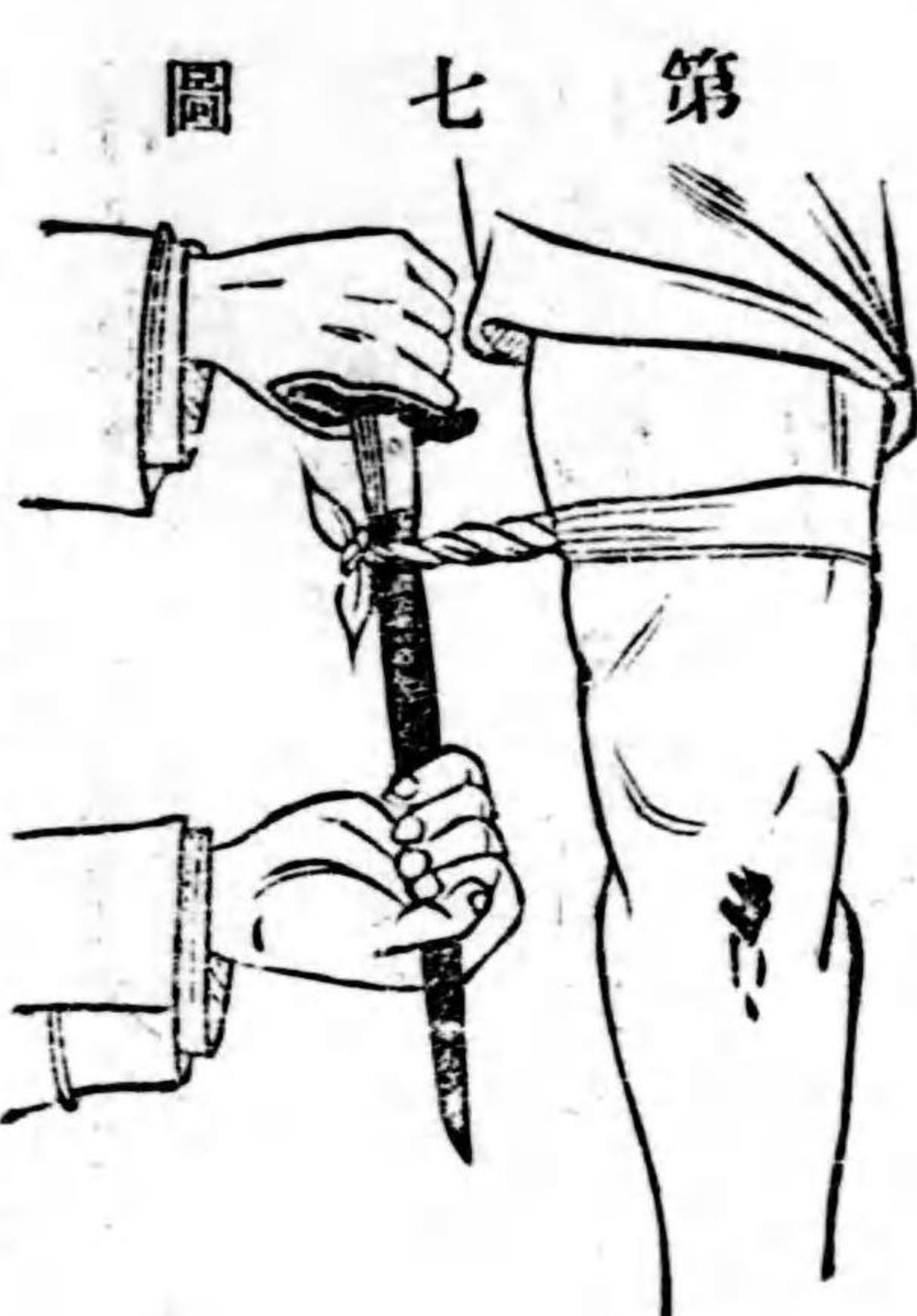
第六圖



骨ニ向ヒテ壓スヘシ(第五圖)

脚ヨリ血出ツルトキハ鼠蹊モモノツケチノ中央ノ下ニ兩拇指ヲ當

テテ壓スヘシ(第六圖)



第一二 上肢又ハ下肢

ヨリ血出ツルコト甚
タ多キ爲指ニテ壓シ
テ補助擔架卒等ヲ待

第七圖

テトモ至ラサルトキハ創ヨリ上ノ脈ノ上ニ圓マロキ物ヲ
當テ疊ミタル三角巾ノ類ニテ緩ク卷キ末端ヲ結ヒ之
ニ棒ノ類ヲ挾ハサミ、廻シテ緊メ、血止マルニ至リテ挾
ミタル物ノ一端ヲ止メ置クヘシ(第七圖)

此ノ如ク緊メタル處ヨリ下感覺ヲ失ヒ冷ヒヤヤカニナリ紫色

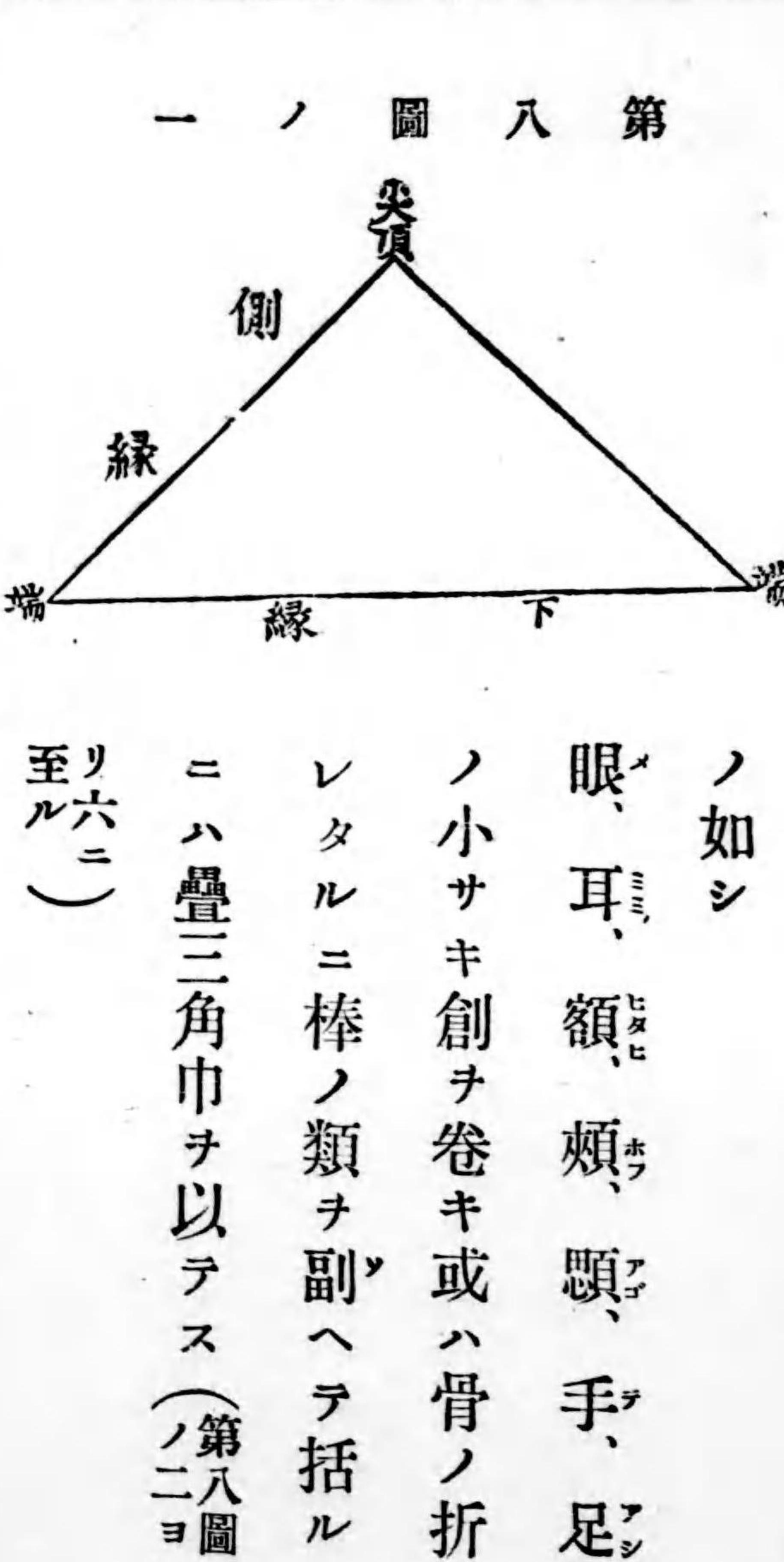
チ帶フルトキハ脈ヲ指ニテ壓シテ卷キタル物ヲ緩メ
暫シベラクアリテ再ヒ緊ムヘシ

緊メテヨリ二時間ナルトキハ、卷キタル物ヲ除キ若シ尙「ガーゼ」アラハ之ヲ創ニ當テ、壓シテ補助擔架卒等ノ至ルヲ待ツヘシ

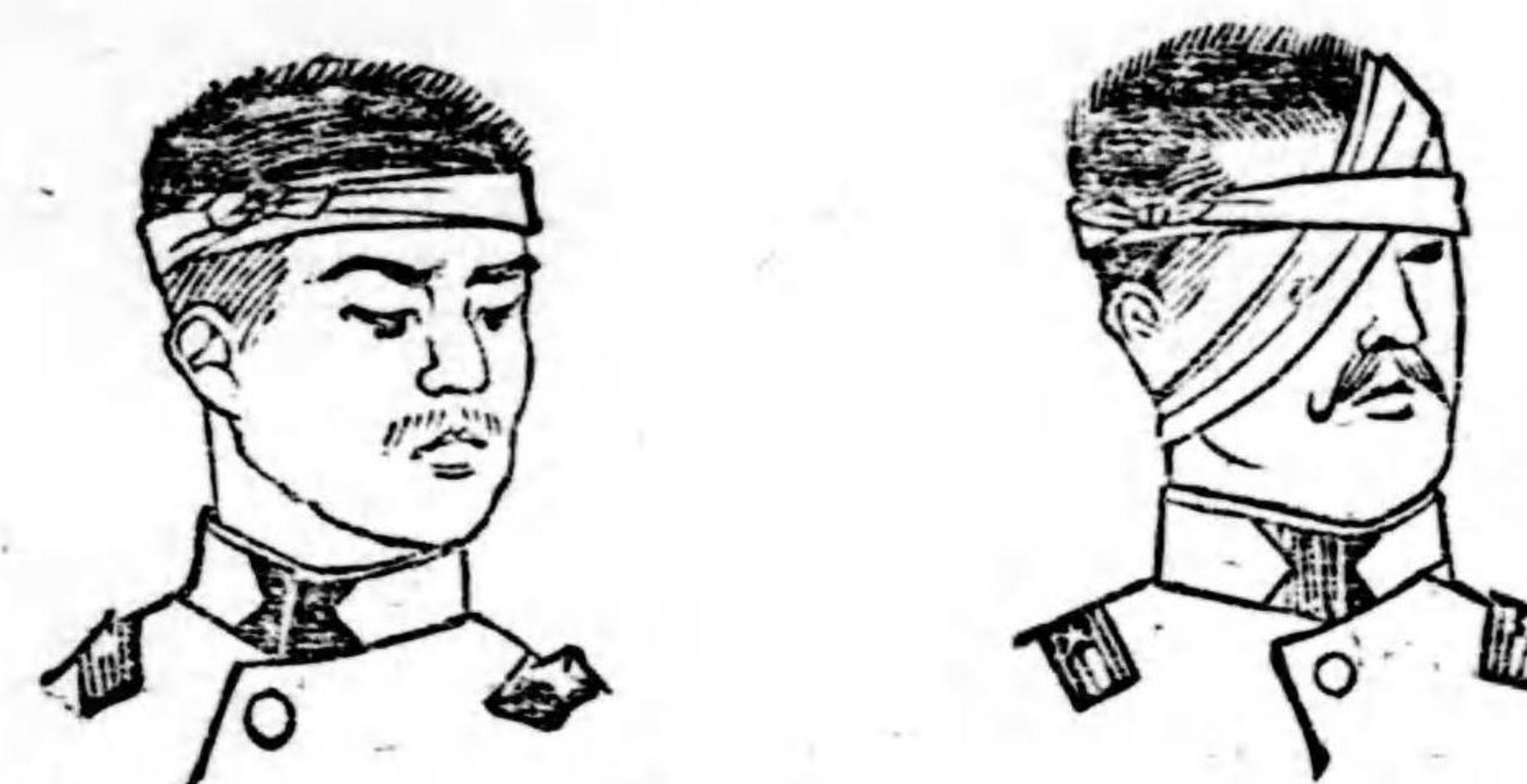
第二章 三角巾

第一三 三角巾ハ或ハ開キタル儘用井或ハ尖頂ヨリ順次ニ疊ミテ巾一寸許ノ帶トナシテ用井ルヘシ後ナルヲ疊^{タタミ}三角巾ト名ツク（第八圖ノ一）

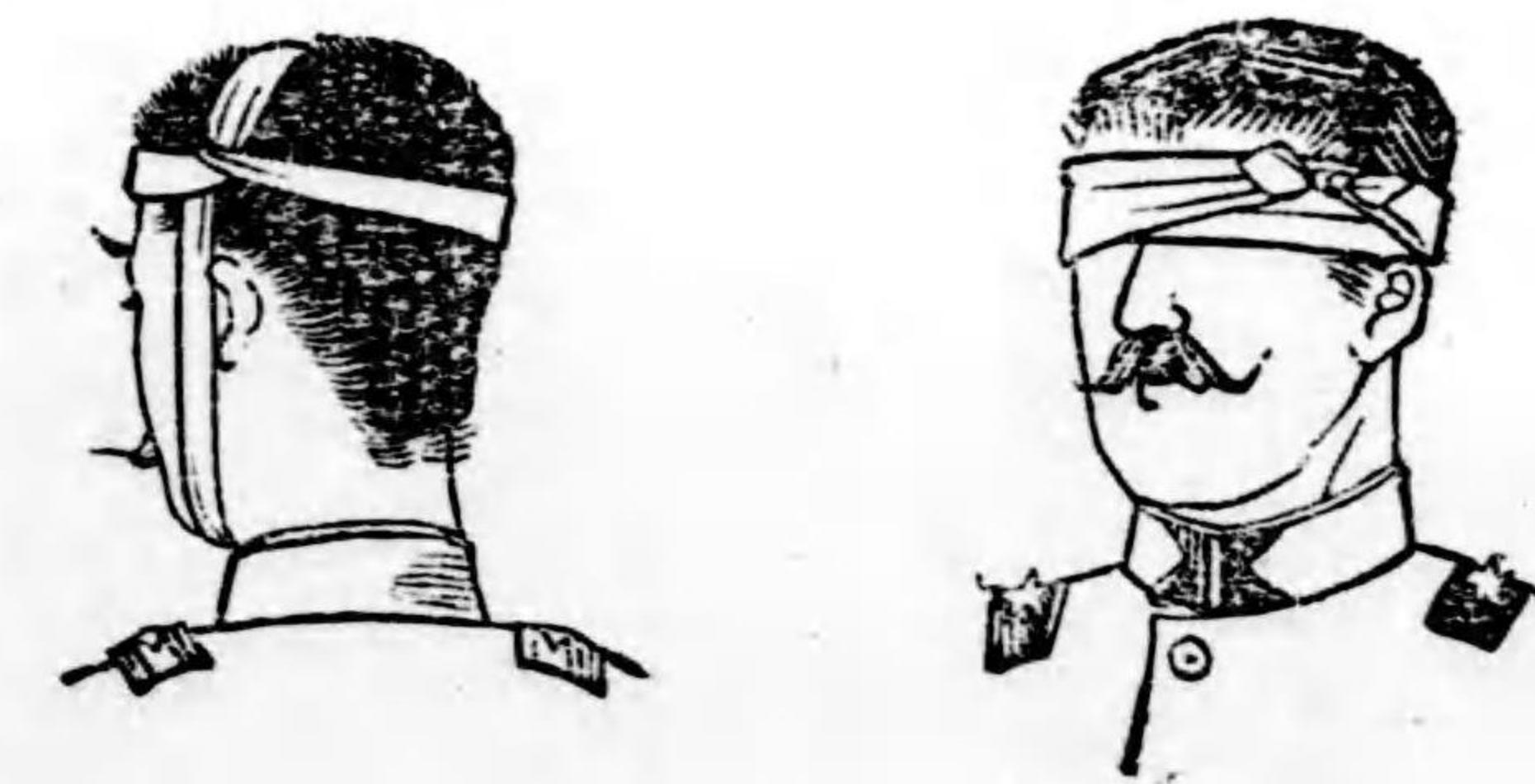
第一四 三角巾ノ卷方ハ身體ノ部位ニ隨ヒテ異^{コト}ナリ左ノ如シ



四ノ圖八第 二ノ圖八第



五ノ圖八第 三ノ圖八第



六ノ圖八第



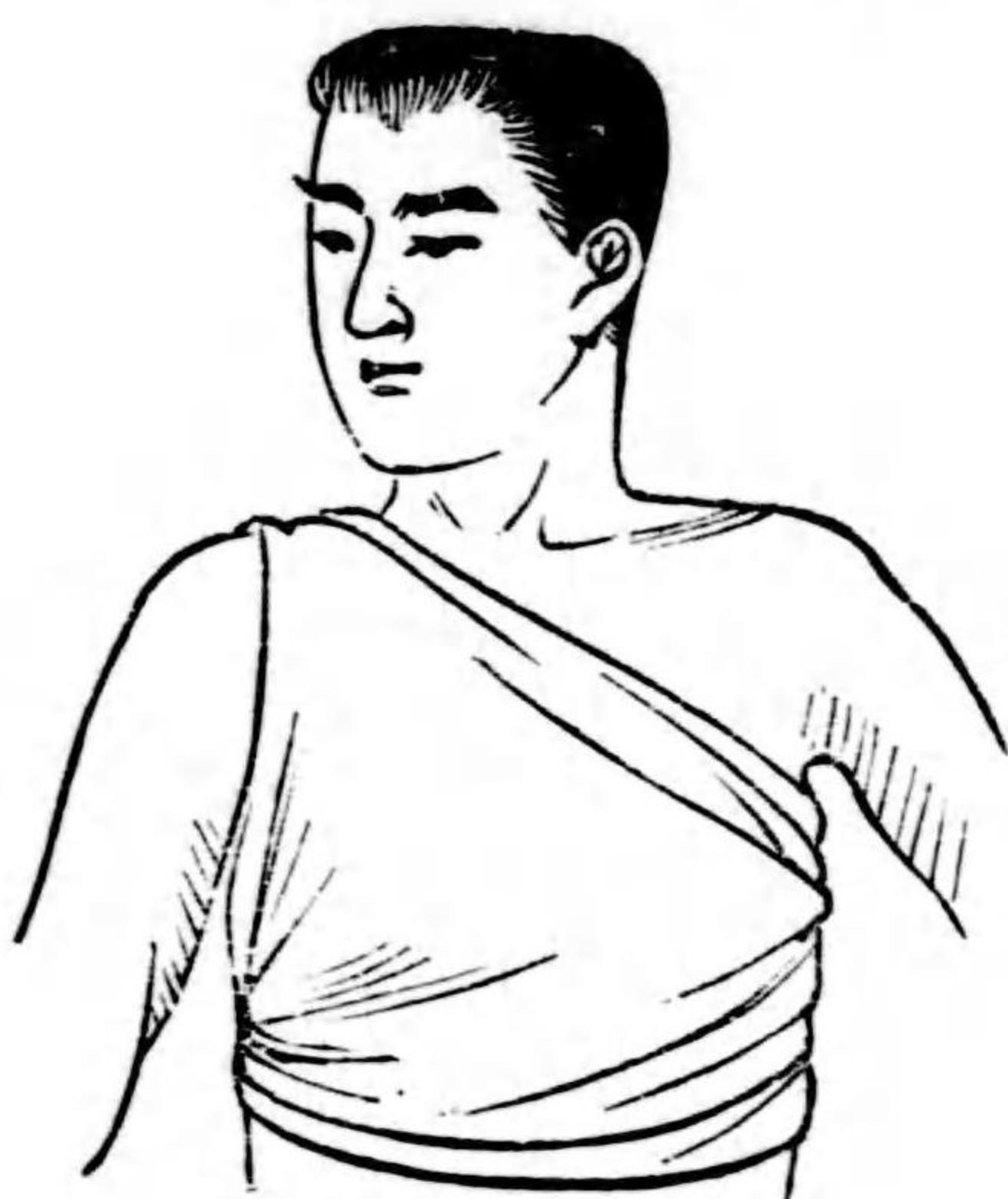
九 第



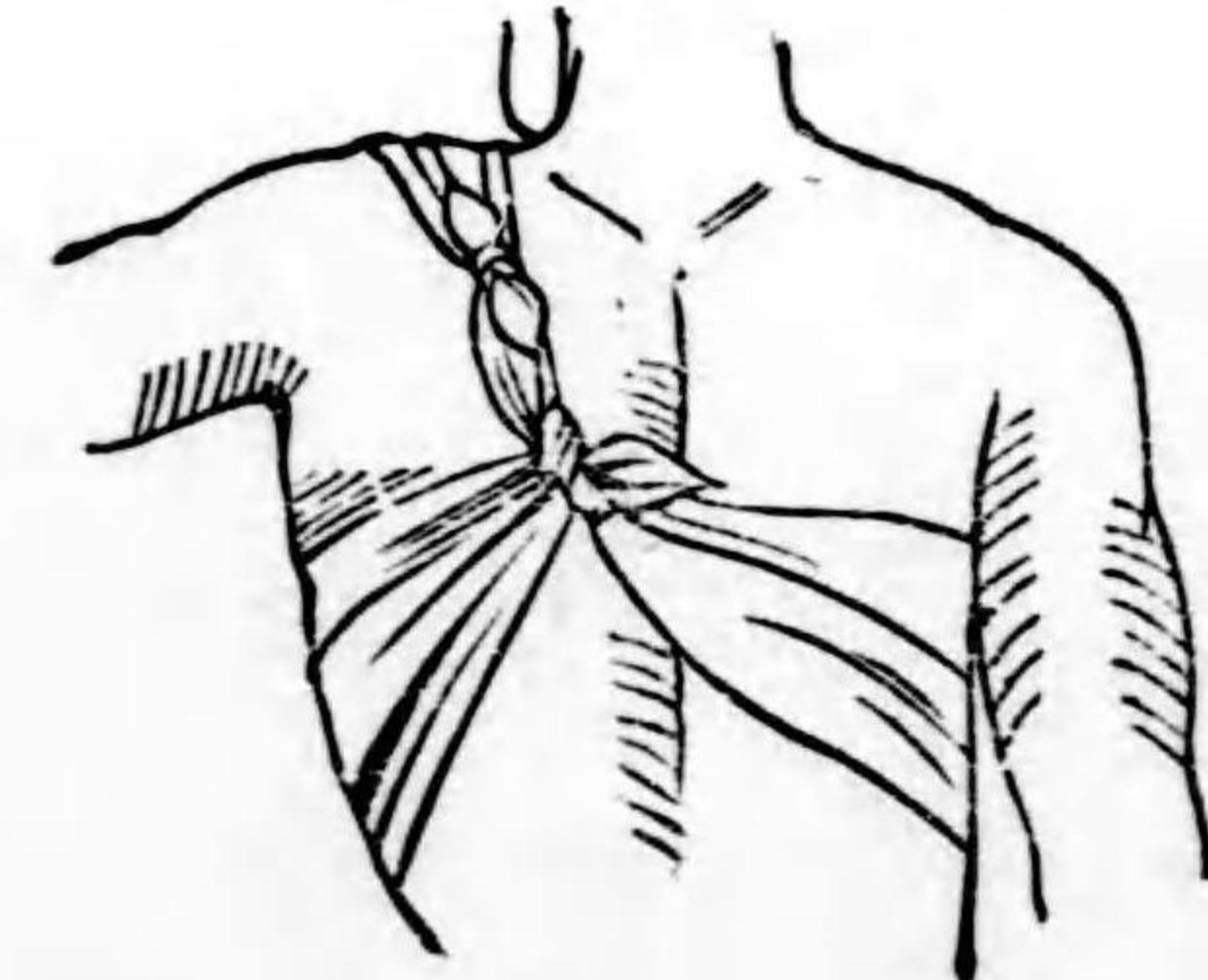
頭ノ創ヲ卷クニハ開キタル儘其ノ中央ノ頭ノ頂ニ置
キ下縁ヲ額ニ當テ兩端ノ頭ノ後ニ廻シ額ニ戻シ結ヒ
テ止メ後ニ垂レタル尖頂ヲ折リ反^カシテ頭ノ頂ニ至リ
巾ノ一端ト結ヒ合ハスヘシ(第九圖)

胸ノ創ニハ巾^{ヨン}ノ中央ヲ胸ニ當テ尖頂ハ創側^{キヌカハ}ノ肩^{カヌ}ヲ越^ヨ

第十圖



第十圖



サセテ後ニ引キ下縁ニテ胸ノ周圍^{マツリ}ヲ纏ヒ(第十圖)兩端

ヲ左右ノ腋ノ下ヨリ背^セニ廻シテ結ヒ更ニ肩ノ後ニ垂
レタル尖頂ト一端トヲ結フヘシ(第十一圖)

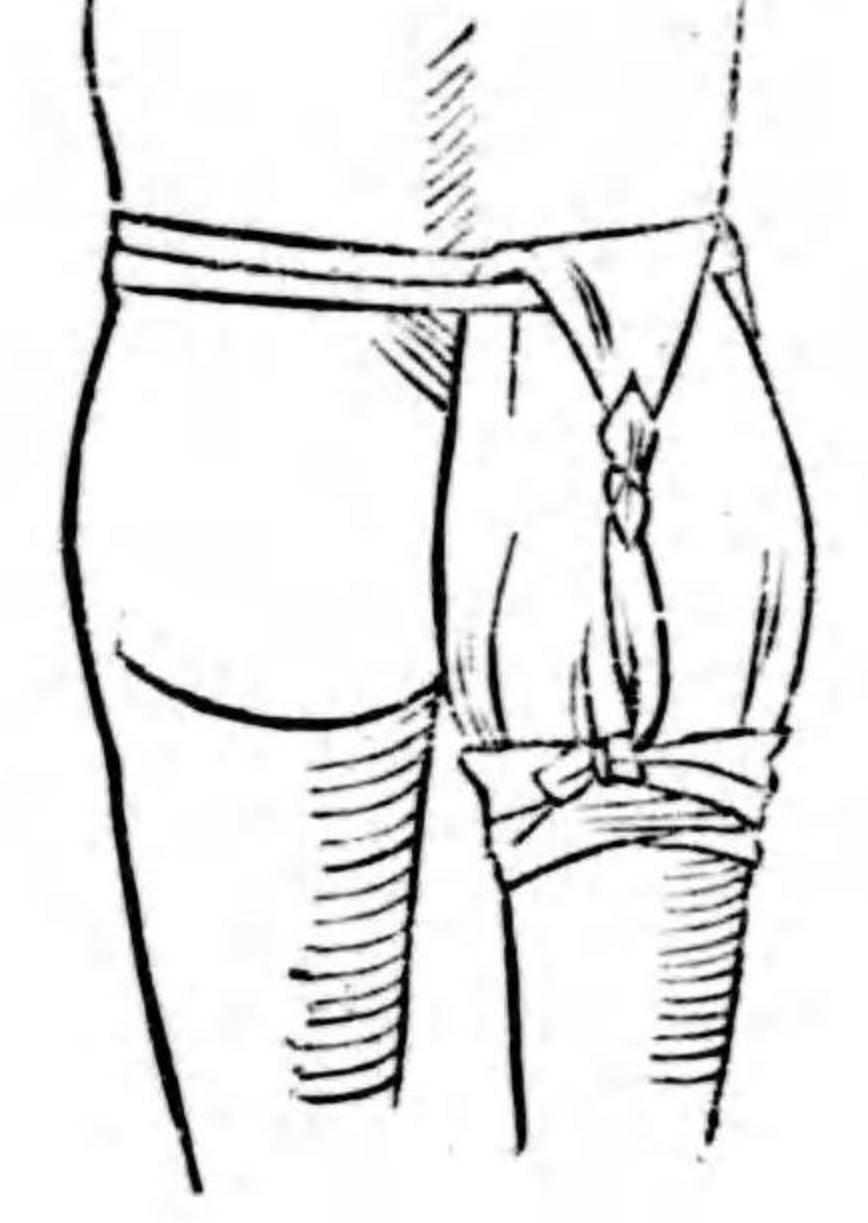
第十二圖

背ノ創ノ卷方ハ胸ノ創ニ同
シ唯後ヨリ掩^{ナホ}ヒ前ニテ結フ

ヲ異ナリトス(第十二圖)

臀^{シテ}ノ創ヲ卷クニハ尖頂ヲ上

ニ向ケ下縁ニテ太腿ヲ纏ヒ後上ニ向ケタル尖端ヲ褲^{フンド}

第
三
十
圖

ハスヘシ（第十三圖）

肩ノ創ノ卷方ハ臀ノ創ニ同シ

上肢若ハ下肢ノ骨折レタルトキハ棒ノ類ヲ當テ少ク
トモ一箇所ヲ結ヒ支フヘシ（第一圖及第八圖ノ六）

第
四
十
圖

手ノ創ヲ巻クニハ三角巾ヲ一ツニ折リ或ハ切りテ半巾
トナシ其ノ下縁ヲ手首ノ方ニ向ケ
テ手ノ下ニ敷キ尖頂ヲ折リ反シテ
手ヲ被ヒ次テ兩端ヲ廻シテ手首ヲ纏ヒ結フヘシ（第十四圖）
上肢ヲ胸ノ前ニ吊ルニ開キタル三角巾ヲ用井ルトキ
ハ一端ヲ創ナキ方ノ肩ヲ越エサセ背ニ垂レ置キ一端
ヲ胸ノ前ニ垂レ創アル上肢ノ前膊ヲ巾ノ中央ニ當テ

第五圖



端ト結フヘシ(第十五圖)

尖頂ヲ肘ノ後ニ餘シ置クコ
ト一、二寸前ニ垂レタル端
ヲ前膊ノ前ヨリ上ニ向ケテ
引キ創アル方ノ肩ノ上ニ送
リ頸ノ後ニテ背ニ垂レタル

疊三角巾ニテ吊ルニハ兩端ヲ結ヒテ環トナシ結ヒタ

第六圖



ル處ヲ頸ニ掛クヘシ(第十六圖)

足ノ創ノ卷方ハ手ノ創ト異
ナルコトナシ

第三章 急病

其一 卒倒

第一五 背囊ヲ卸シ被服ノ束縛ヲ除キ空氣ノ流通好キ

處ニ臥サシムヘシ

室内ニテハ窓ヲ開キ室外ニテハ蔭アル地ヲ選フ

尋常臥サシムルニハ頭ヲ低クス顔赤キトキニ限り頭

ヲ高クシ之ヲ冷ス

聲高ク喚ヒ醒マシ鼻ノ穴ヲ刺戟シ醋ノ如キ臭強キモノヲ嗅カシメ顔、胸ニ水ヲ灌キ額、顴顴ニ火酒ヲ塗リテ摩リ胸、上肢、下肢ヲ毛織ノ布ニテ心ノ臟ノ方

ニ向ケテ摩リ胸、掌^{テンヒラ}、蹠^{アシノウラ}ヲ刷^{ハケ}ニテ擦ル等場合ニ依リ試ミテ可ナリ

吐^ハクトキハ頭ヲ横ニ向クヘシ

呼吸弱キトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行フ

ヘシ

醒メタルトキハ冷メタル湯^ユ茶又ハ水ヲ飲マシムヘシ

其二 火傷、電氣傷

第一六 人ヲ火ノ中ヨリ救^スヒ出サントスルトキハ我衣
 褒^コナ濡^{スラ}シ頭ト頸トニ濡^{スラ}シタル巾ヲ纏フヘシ
 被服ノ燃^モユル人ヲハ速^{スミヤカ}ニ且^{シテ}靜^{シグ}ニ地ニ僵^{ダブ}レシメ被服、
 寢具等ヲ以^{オホ}テ覆フヘシ

火傷、(湯傷) 電氣傷ハ徐ニ傷處ヲ露スヘシ衣片ノ皮
 ニ膠著^{カワチヤク}シタル處ハ強^{シヒ}テ引キ離^{ハナミ}サス剪^{ハサミ}ニテ周圍ヲ切り

取ルヘシ

皮赤クナリタルノミナルトキハ水ニテ冷スヘシ
 水泡^{ヌホ}ナ生シタルトキハ薄皮^{ヌカ}ヲ破ルコト勿レ
 皮爛^{タダ}レタルトキハ「ガーゼ」ニテ掩ヒ繃帶^スヘシ「ガ
 ゼ」ナキトキハ新ナル布片ニ清潔^{セイケツ}ナル油ヲ塗リ掩
 フヘシ

指ハ一本毎ニ繃帶^スヘシ

其三 瞑病

第一七 背囊ヲ卸シ被服ノ束縛ヲ解キ空氣ノ流通好キ處ニ臥サシムヘシ臥サシムルニハ蔭アル地ヲ選フヘシ

頭ヲ高クスヘシ

扇ノ類ニテ風ヲ送ルヘシ

顔、胸ニ水ヲ灌キ濡シタル布片ニテ胸ヲ覆フヘシ氷アラハ手拭テヌグヒニ包ミ頭、胸ニ當ツヘシ

上肢、下肢ヲ摩ルヘシ

呼吸弱キトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行フヘシ

醒メタルトキハ冷メタル湯茶又ハ水ヲ飲マシメ又醋ノ如キ強キ臭アル物ヲ嗅カシメ再ニ失心スルコトヲ防クヘシ

醒メテ忽チ眠ルモノハ生命危シ監視ヲ怠ルコト勿レ

喝病起ルニ先タチ顔赤クナリ頭痛スルニ心附カハ早

ク喝病ノ處置ヲナスヘシ

其四　凍傷

第一八　豫防用ノ軟膏類アルトキハ鼻、耳、手ノ指、

足ノ趾ニ塗ルヘシ

紫色ニナリタル處ハ雪、氷若ハ冷水ヲ用井テ輕ク永

ク摩ルヘシ

水泡ヲ生シ又暗黑色ヲ呈スルトキハ處置火傷ト同シ

其五　凍沕假死

第一九　凍沕假死ハ膚ノ色蒼ク上下肢、耳、鼻等強ク
ナリテ倒ル

凍沕シタル人ノ體カラダハ折レ損シ易キカ故ニ觸レ動スニ
ハ溫存ノ意アルヲ要ス

風ヲ受ケサル地又家屋アラハ冷ナル室ニ移スヘシ
被服ヲ除クヘシ

雪ニテ又ハ水ニ浸シタル布ニテ輕ク摩ルヘシ
體柔^{ヤハラカ}ナルニ至ラハ冷ナル寢具ノ上ニ移シ乾^{カワ}キタル毛^マ
織物又ハ布片ノ類ヲ以テ全身ヲ摩ルヘシ

要スルトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行フヘ

シ

醒メタルトキハ微溫^{ゼン}ナル湯茶ヲ飲マシメ次テ酒類ヲ
飲マシムヘシ

寢具ヲ被フニハ次第ニ厚クシ室ヲ煖^{アヌタ}ムルニハ徐ニ煖
ムヘシ

其六 溺水

第二〇 被服ヲ除クヘシ

淨キ布片ヲ示指ニ纏ヒ口ト咽^{イフ}トノ泥土等ヲ撈^{サラ}ヒ出ス

ヘシ

次ニ腹ニ丸メタル被服ヲ當テ又ハ腹ヲ我膝ニ當テテ

俯^フサシメ掌^ヲ溺^ル者^ノ額^ニ當^テテ首^ヲ反^ラセ背^ヲ打^チ
水^ヲ吐^カシムヘシ

體^ヲ倒^サニ吊^ルハ不可^{ナリ}

要スルトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法^ヲ行フヘ
シ

其七 窒息

第二一 室内ニ炭氣^{アソニ}、瓦斯等溢^{アス}レタルトキハ戸^ヲ開ク

ヘシ要スルトキハ扉^ヲ壞^{コボ}ツコトヲ得

瓦斯溢レタル室ニハ火^ヲ携^{タヅサ}ヘカラス

井^ヲ、窖^ヲ、坑道^ヲノ中ニ有害氣類^ヲアルトキハ布^ヲノ類^ヲ振^リ
リ動シ又ハ開キタル傘^ヲニテ換氣^ヲ圖^ル等ノ手段^ヲ試^ミルヲ要ス

差シ入レタル燭火^ヲノ滅^ルハ尙有害氣類^ノ殘^ル徵^{ナリ}

救助ノ爲ニ之ニ入ルニハ醋ニ浸シタル布又ハ海綿ヲ
口ニ當テ救助索ヲ胸ト肩トニ結ヒ手ニ信號索ヲ結ヒ
テ入ルヘシ

救助出シタル人ヲハ通氣好キ處ニ置キ顔ト胸トニ水
ヲ灌キ又ハ水ニ浸シタル布片ヲ當ツヘシ
要スルトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行フヘシ

第八 埋没假死

第二三 埋没者ヲ救ヒ出サントスルトキハ土ノ再ヒ崩^グ
ルルコトアルヲ慮^{オモシバカ}ルヘシ
體ヲ動カストキ容易^{ヨウイ}ニ知リ難キ處ノ骨折レタルコト
アルヲ慮リ温存ニ注意スヘシ
鼻、口、咽ノ土等ヲ除クヘシ
次テ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行フヘシ
其九 咬傷、螯傷

第二四 創ノ周圍ヲ輕ク壓シテ血ヲ出スヘシ

創ニ「ガーゼ」ヲ當テテ繩帶スヘシ

上下肢ヲ咬マレ又ハ螯サレタルトキハ創ヨリ心ノ臟ニ近キ處ヲ括ルヘシ

其十 中毒

第二五 自ラ吐カサルトキハ指ノ尖若ハ羽ニテ咽ヲ刺戟シ又多ク微溫湯、鹽湯ヲ飲マセ吐ヲ促スヘシ

生卵、牛乳、食用油、「バタ」若ハ湯茶ハ毒ヲ稀クス
ル功アリ但シ燐、斑猫ノ毒ニハ牛乳、油、「バタ」ヲ
禁ス

第四章 人工呼吸法

第二六 地ニ敷クヘキモノアラハ敷クヘシ

衣ヲ脱カセ袴ヲ開キテ仰キ臥サシメ被服ノ類ヲ巻キタルヲ背ニ挿ミ胸ヲ高クシ頭ヲ低クスヘシ

兩上肢ハ頭ノ上ニ頭ヲ押オサヘタル形カヌチニ置クヘシ（第十七圖ノ二）



乙救助者アラハ頭ノ前ニ跪ヒザマツ
キ下顎シバフコノ角カドヲ推シテ下ノ歯
列ナミヲシテ上ノ歯列ヨリ前ニ
出テシムヘシ（第十七圖ノ一）
乙救助者ナクハ甲救助者舌シタ



二ノ圖七十第

ヲ引キ出シテ布片ニテ頬オドガヒニ括リ附クヘシ又ハ絲ニテ
舌シバヲ縛リ絲ヲ項ワナシニ廻シテ結ヒ或
ハ舌ヲ箸スプーンノ如キ一本ノ棒ニテ挾ハサ
ミ兩側ヲ縛リ棒ノ端ニテ頬ニ支
ヘ口ヨリ出シ置クヘシ
甲救助者ハ假死者ノ腰ニ跨マダカリ
テ跪キ兩手ノ掌ヲ開キ假死者ノ

兩脇ノ下端ニ當テ自己ノ身ヲ伏セツツ肋^{アバラ}ヲ絞ル様ニ
壓スヘシ（第十七圖ノ二）

暫クシテ甲救助者ハ急ニ身ヲ起シツツ兩手ヲ放ツヘ
シ

此ノ動作ハ間ヲ置キテ反覆^{ハシブ}スルコト凡一分間ニ十六
度ナルヘシ

又此ノ動作ハ假死者自ラ息^{イキ}スルニ至ル迄續^{ハシマ}クヘシ時

トシテハ一時間以上續ケテ功アルコトアリ早ク見捨
ツヘカラス

第二編 衛生法大意

第一章 傳染病ノ豫防

第二七 傳染病ハ創ノ癒ユルヲ妨クル病原菌ト似タル種々ノ小サキ生物アリテ體ニ入ルニ由リテ起ル豫防法トハ此ノ生物ヲ體ニ入ラシメサル法ナリ

第二八 傳染病ヲ豫防スルニハ清潔ヲ保持スヘシ室、被服、寢具及身體ハ清潔ニ保持スルヲ要ス

殊ニ手ヲ屢洗フヘシ

人ノ手拭ヲ借ルコト勿レ

人ノ寢具ヲ著ルトキハ顔、頸ニ當タル處ニ手拭ヲ被フヘシ

第二九 咳アル人ニ近ツキテ呼吸スルハ危シ
塵ヲ起スハ危シ

第三〇 飲食物ニ非サルモノヲ口ニ入ルコト勿レ書

ヲ讀ムトキ指ヲ舐リ鉛筆、毛筆ノ軸等ヲ口ニ入ルルハ危シ

指ニテ目ヲ摩ルコト勿レ

第三一 水ハ成ルヘク飲ムコト少キヲ可トス
十分ニ煮タル湯茶モ淨メサル器ニ盛リ又ハ掩ハサル器

一旦煮タル湯茶モ淨メサル器ニ盛リテ時ヲ經ルトキハ危シ

生牛乳ヲ飲ムヘカラス

第三二 食物ハ十分ニ煮タルモノヲ可トス

第三三 蟻ノ止マリタル飲食物ヲ飲食スルコト勿レ
蟻ハ努メテ撲チ殺スヘシ

第三四 腐リタル疑アル飲食物ヲ飲食スルコト勿レ
獸肉ハ腐ルトキ色變リ指ニテ壓ストキ指ノ痕ヲ留ム

魚ハ腐ルトキ目濁ル

總テ肉類ハ腐ルコト甚シキトキ臭アリ

腐リタル肉ノ毒ハ煮テモ滅セサルコトアリ

米ニ徽カビヲ生シタルハ危シ

粉コハ握リテ放ツトキ直ニ散セサルヲ腐リタル徵トス

第三五 室内ノ通氣ヲ好クスヘシ

泥靴モダマヲ室内ニ入ルヘカラス

室ノ内外、人ノ手ノ多ク觸ル箇所ハ病原菌ノ著キ

居ル虞アリ

第三六 乾カスコトハ豫防ノ功アリ

被服、寢具、陣營具チンエイグ、私物シブツ、室内總テ乾キ居ルコト

ニ注意スヘシ

第二章 傳染病ノ種類

其一 虎列刺

第三七 虎列刺ノ病原菌ハ吐キタル物、下シタル物クダノ

中ニアリ

此ノ菌ハ水、飲食物ニ雜リテ腹ニ入ル
 又指其ノ外ノ物ニ附キ居リテ口ヨリ入ルコトアリ
 患者ニ近ツキ又患者ニ非サレトモ患者ノ傍カタハラニアリシ
 爲病原菌チ宿ヤドシ居ル人ニ近ツクハ危シ
 生ノ野菜、熟セサル果クダモノノ類チ食フトキハ虎列刺ニナ
 リ易シ

第三八 虎列刺ニナリタル人ハ腹痛マスシテ下シ次テ

吐ク

下ス物後ニハ米ヲ淘キタル汁ノ如クナル
 幾モナク目窪ミ目ノ縁ニ鉛色ナマリイロノ暈カクナシ鼻尖ヒメリ聲嗄カク
 レ膚冷ヒヤカニナリテ撮ツマミ上クレハ嬖ヒゲチナシ故モトニ復ラス
 渴甚シ

小便少シ

腓腸痛ム

其二 赤痢

第三九 赤痢ノ病原ハ菌ト菌ニ非サル小サキ生物トノ
二種アレト何レモ下シタル物ノ中ニアリ
此ノ病原モ水、飲食物ニ雜リテ腹ニ入ル
又指其ノ外ノ物ニ附キ居リテ口ヨリ入ルコトアリ
患者ニ近ツキ又患者ニ非サレトモ患者ノ傍ニアリシ

爲病原ヲ宿シ居ル人ニ近ツクハ危シ

生ノ野菜、熟セサル果ノ類ヲ食フトキハ赤痢ニナリ

易シ

第四〇 赤痢ニナリタル人ハ腹劇シク痛ミテ下シ、下
シタル後忽チ又腹絞^{シキ}リテ下サントス下ス分量ハ次第

ニ少クナル

下ス物後ニハ糊ノ如クナリ血^{マジ}ヲ雜フ

赤痢ハ一タヒ治シテモ再發^{サイホツ}シ易シ

其三 腸窒扶私

第四一 腸窒扶私ノ病原菌ハ大小便ノ中ニアリ
此ノ菌モ水、飲食物ニ雜リテ腹ニ入ル
又指其ノ外ノ物ニ附キ居リテ口ヨリ入ルコトアリ
患者ノ病已ニ治シテ尙菌ヲ宿シ居ルモノ又患者ニ非
サレトモ患者ノ傍ニアリシ爲菌ヲ宿シ居ル人ニ近ツ

クハ危シ

第四二 腸窒扶私ニナリタル人ハ熱アリテ約四週間續

ク

熱ノ爲精神鈍クナリ譖語^{ハコト}ヲ言ヒ甚シキハ狂人^{キナガイ}ノ如キ
舉動^{キョウドウ}チナスコトアリ

胸、腹、背ニ細^{ホソ}キ桃色^{モモイロ}ノ疹^{フキデモノ}ヲ生ス

其四 「ペスト」

第四三 「ペスト」ノ病原菌ハ此ノ病アル鼠チズミノ糞フン、溺ネロ、
患者ノ腫物シユモツノ膿ウミ、大小便ノ中ニアリ
病胸ニ附キタルトキハ咳セキニテ飛ヒ出ツル痰タシノ雲シヅクニ菌
アリ

菌ハ皮ノ小サキ創ヨリ入ル
蚤イニ菌アリテ此ノ病ヲ傳フルコトアリ
痰ノ雲ニ菌アルトキハ息ニテ吸ヒ込ム

鼠ヲ狩リ取ルヘシ死シタル鼠ヲ見出ストキハ手ヲ觸
レスシテ衛生部員ニ告クヘシ

第四四 「ペスト」ニナリタル人ハ菌ノ入りタル創ヨリ
心ノ臓ニ近キ處ニ腫物ヲ生ス

熱アリテ顔赤ク歩ムニヨロメキ醉ヒタル人ニ似タリ
病胸ニ附キタルトキハ咳アリテ痰ニ血ヲ雜フ
第四五 以上四病ニ痘瘡トウヤウ、發疹室扶私ホツシンチフス、猩紅熱ショウコロチツ、實扶ザフ

的里^{アリ}ヲ加ヘタルモノヲ法律ニテ傳染病ト定ム

其五 麻刺里亞

第四六 麻刺里亞ハ世ニ謂フ瘧^{オコリ}ナリ其ノ病原タル小サキ生物ハ血ニ在リ蚊ノ一種患者ノ血ヲ吸ヒ居リテ他人ノ人ヲ螯^{アザ}ストキ傳染ス

此ノ病ヲ避^{アザ}クルニハ蚊ニ螯サレサルヤウニスヘシ
「キニーネ」ト云フ藥ヲ服シ居レハ蚊ニ螯サレテモ病

起ラサルコトアリ

第四七 麻刺里亞ニナリタル人ハ時ヲ隔テ熱ヲ發ス
熱ノ前ニハ寒^{サムサ}ヲ覺エテ體震^{フル}ヒ熱ノ後ニハ汗出ツ
病ムコト久シキトキハ色蒼^{アチ}クナル

其六 結核

第四八 結核ノ胸ニ附キタルハ世ニ謂フ肺病^{ハイビヤウ}ナリ其ノ病原菌ハ患者ノ痰、同シ病アル牝牛^{ウシ}メ乳汁^{ミルク}ニアリ

患者「ハンカチーフ」ヲ口ニ當テスシテ咳ヲナストキ
ハ痰ノ雲飛ヒ出ツ向ヒ合ヒタル人之ヲ息ニテ吸ヒ込
ミ傳染スルコトアリ

痰乾キテ塵ニ雜リ又物ニ乾キ附キ居ルヲ口ニ入ルル
トキ此ノ病ニナルヲ常トス指、食器等ニテ口ニ入ル
コト多シ

此ノ病アル牝牛ノ乳ヲ生ニテ飲ムトキモ此ノ病ニナ

ル菌ハ咽ヨリ頸ノ腺^{グサ}ニ入り居リ、ソレヨリ血ニ入り
テ胸ニ附ク

第四九 結核ニナリタルトキハ色蒼クナリ咳出テ腹テ
下シ熱出ツル等ノ徵アリ

久シクナレハ痰ニ血ヲ雜ヘ又血ノミナ喀ク
後ニハ熱日出テ寢汗出ツ

其七 花棚病

第五〇 花柳病ハ淋病リンドウイソク、下疳ゲカン、黴毒ハイドグノ三種アリ

第五一 淋病、下疳ノ病原菌ハ此ノ病ノ附キ居ル處ヨ
リ出ツル汁ニアリ

患者ト性交セイガラチナストキ傳染スルヲ例トス

病、目ニ附キ居ルトキハ目ヨリモ傳染ス

第五二 黴毒ノ病原菌ハ患者ノ全身ニアリ

患者ト性交セイガラチナストキ傳染スルヲ例トス

菌ハ患者ノ唾ツバキニモアリ疹ニモアルカ故ニ患者ニ觸レ
タルノミニテモ傳染スルコトアリ

親ヨリ子ニ傳フ

第五三 壯年ノ人久シク性交ヲ斷チ居ルトキハ健康ヲ
害ガイスト云フモノアレトモ誤ナリ信スヘカラス

其八 「トラホーム」ノ病原菌ハ患者ノ目ヨリ出ツル

第五四 「トラホーム」ノ病原菌ハ患者ノ目ヨリ出ツル

汁ニアリ

指、手拭、洗面器、被服、寢具等ニテ傳染ス
人ノ手拭ヲ借ラサルハ勿論、私物ノ洗面器ヲモ持チ
居ルヲ利アリトス

水管ヨリ流レ出ツル水ヲ掌ニ承ケテ洗面スルトキハ
傳染ノ虞ナシ

第五五 「トラホーム」ハ衛生部員ナラテハ他ノ眼病ト

別チ難シ

第三章 雜件

第五六 眠ルコトヲ許サルル時間ニハ十分ニ眠ルヘシ
第五七 靴傷ヲ防ク爲足ト靴下トヲ清潔ニ保持スヘシ
靴ハ脂ヲ塗リテ軟ナラシムヘシ

豫防用ノ軟膏類アルトキハ行軍ニ先タチテ足ニ塗ル
ヘシ

靴下ニ皺ナカラシメ縫目ヲ外ニシテ穿クヘシ
 靴ヲ穿クトキ底革ソヨガハ、後革ロシロガハヲ卷キ込ムコト勿レ
 靴紐クサヒヤヲ締ムルコト緊カタキニ過クルコト勿レ
 休止ノ時又ハ宿營ニ就キタル時ハ足、殊ニ足ノ趾ノ
 間ヲ洗フヘシ濡レタル靴下ハ穿キ換フヘシ
 皮赤クナリタルトキハ水ニテ冷シ又ハ火酒ヲ塗リテ
 功アリ

第五八 鞍傷グラスレヲ防ク爲脣及太腿ノ内面ハ清潔ニ保持ス
 ヘシ

袴下ハ乾キタル者ヲ用井鞍ヨウバンニ接スル部ハ皺ナカラシ
 ムヘシ

皮赤クナリタルトキノ處置ハ靴傷ニ同シ

第五九 寒キ時ノ休止ニハ耳、手ヲ擦リ足踏フシブミスヘシ

寒地ニテ寒甚シク凍沕假死ノ虞アルハ多クハ氣温ノ

低キニ因ラスシテ風アルニ因ル故ニ風ヲ障^{サツ}フル處ヲ
求メ又ハ作リテ靜止スヘシ此ノ如キ時ニハ足踏等ハ
功ナシ

寒甚シキトキハ金屬^{キンソク}ニ觸レテ傷チ受クル虞アリ
第六〇 热地ニテ渴病ノ虞アルハ氣溫ノ高キ爲ノミニ
アラスシテ空氣^{ワカルホ}濕ヒ風ナキニ因ル此ノ如キ場合ニ劇^{タク}
動チ要スルトキハ特ニ渴病ニ對シテ注意スヘシ

麻刺里亞ヲ傳フル蚊ハ三百乃至四百步以外ニ飛ヒ行
カサルヲ例トス故ニ麻刺里亞ニナリ居ル土人ノ家屋
ヲ稍離ルルトキハ傳染ヲ免ル

大正五年六月廿七日印刷

大正五年七月一日發行

(救急法及衛生
大意與付)



發行者

東京市日本橋區通三丁目七番地
小島棟吉

印刷者

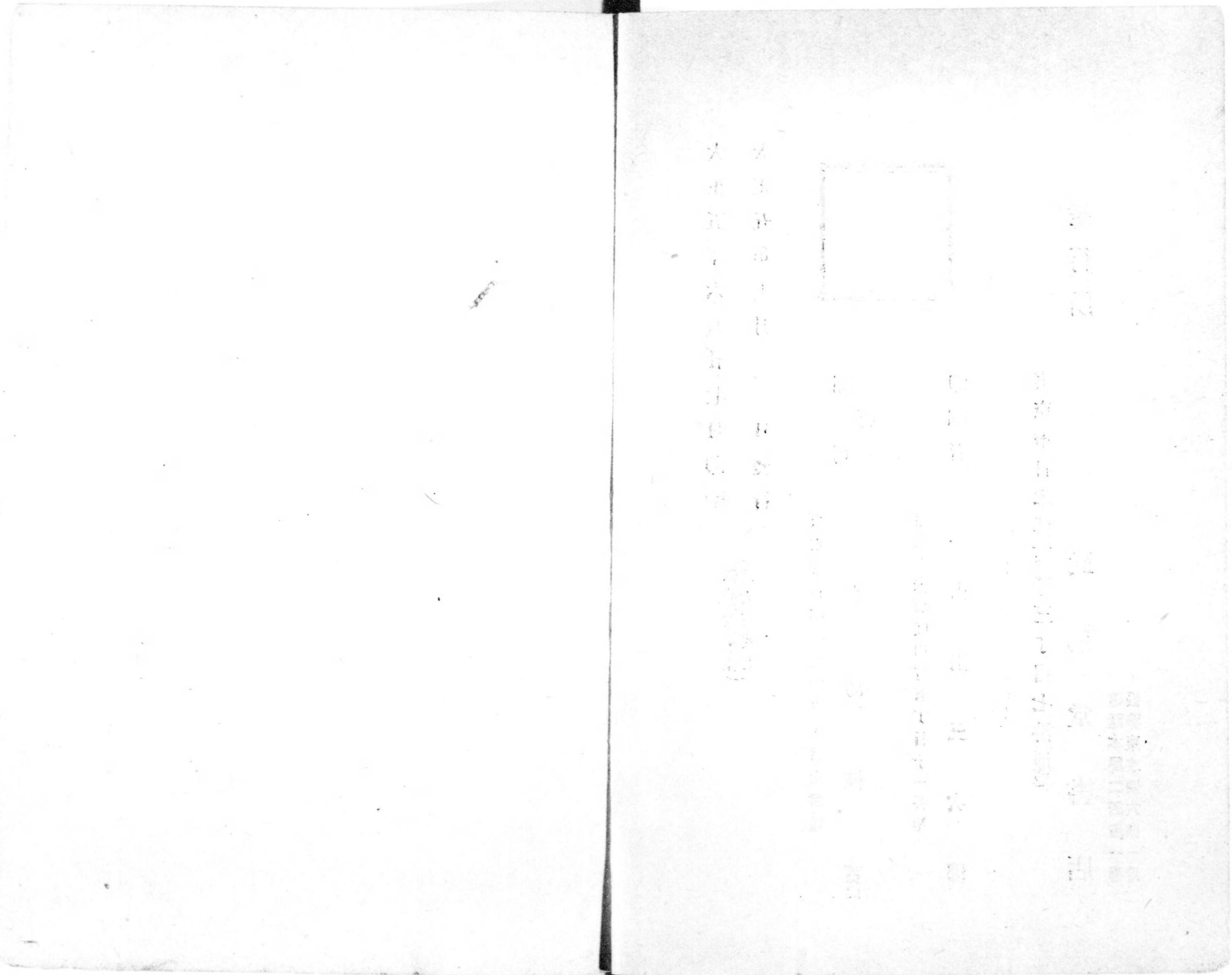
東京市赤坂區田町五丁目十一番地
山田三次郎

發行所

東京市日本橋區通三丁目七番地

武揚堂書店

電話本局二四五一
六四一一番



終

